



焼火神社
たくひめじんじや

平安時代から全国に海上安全の神として知られた神社です。焼火山の中腹にあり、明治以前には焼火山・雲上寺と称していました。一般的には焼火権現として知られています。平安中期の創建といわれ、社殿は大岩窟の中からせり出すように建てられています。平成4年に国の重要文化財に指定されました。

文化財



焼火権現
たくひごんげん

焼火権現は、「焼火神社」のご神体であり、海上安全の神として崇められています。「ゲゲゲの鬼太郎」で有名な水木しげる氏のデザインにより、別府港フェリーターミナルに設置されました。

©水木プロ

由良比女神社大祭
ゆらひめじんじやたいさい

隔年(西暦奇数年)の7月最終の土日に行われる由良比女神社の大祭で数多くある島の祭の中でも最大規模のものです。



由良比女神社
ゆらひめじんじや

「隠岐国一の宮」。延喜式神名帳に見える古社で漁業神、海上守護神として島内の信仰を集めています。鳥居が海中に立ち、その入江にイカの大群が押し寄せることで知られております。

黒木御所
くろきごしょ

別府港の東、湾に突き出た丘の上にあり、元弘2年、後醍醐天皇が配流になられ、約1年間住まれたといわれる伝承の地で、島を代表する史跡となっています。丘の上には御所の史跡の他、天皇をまつる黒木神社があり、昭和33年に県史跡に指定されました。



帝祭
みかじまつり

後醍醐天皇が隠岐を脱出されたことにちなんで、黒木御所周辺を舞台に御所車行列や時代行列が練り歩きます。